

# 日清戦争俳句研究

## — 『俳諧山吹叢誌』 掲載句を中心に —

福留 賢

本研究は、俳句雑誌『俳諧山吹叢誌』がどのような雑誌であるのか等を明らかにし、『俳諧山吹叢誌』に掲載された戦争俳句を分析し、日清戦争がどのように同時代の日本人に詠まれていたのか特徴を明らかにすることを目的とする。

研究方法として、本研究は俳句雑誌『俳諧山吹叢誌』を対象とした文献研究である。1894年（明治27年）7月23日から1895年（明治28年）11月30日の期間に出版された『俳諧山吹叢誌』第17号から第44号に掲載された俳句を収集し、分析する。

『俳諧山吹叢誌』第17号から第44号に掲載された俳句の総数は9830句であった。これらは、748人の俳人によって詠じられており、その俳人の居住地は169ヶ所であった。俳人の居住地を見ると、肥前から十勝まで幅広い範囲であるが、特に関東地方から東北地方にかけて多く分布しており、西日本は少ないことが特徴として挙げられる。

『俳諧山吹叢誌』に掲載された戦争俳句は307句であった。これらの戦争俳句を詠じた俳人の居住地は、30ヶ所である。中部地方から関東地方、東北地方にかけて、俳人の居住地が多く分布している。関東地方では様々な俳人によって戦争俳句が詠じられており、また東北地方や中部地方では、特定の俳人が多くの戦争俳句を詠じているという特徴がある。

『俳諧山吹叢誌』に掲載された戦争俳句を俳句の内容で分け、「日清戦争の戦局について詠じた俳句」、「日本軍について詠じた俳句」、「朝鮮・清・台湾について詠じた俳句」、「銃後について詠じた俳句」の4項目に分類し、分析を行った。分析の結果、「銃後について詠じられた俳句」は少なく、多くが戦争や日本軍、清国軍など戦争の前線について詠じられた俳句であった。日清戦争の戦局を詠じた俳句では、日本の勝利を詠じた俳句が多く、加えて、占領・新領地に関する俳句も多く詠まれていることが特徴として挙げられる。これらの俳句は、戦争に対して肯定的な表現がなされていることが多く、日清戦争の勝利を祝福した俳句や、日本軍の勇猛さを称賛した俳句が多く詠まれている。他方、清や朝鮮、台湾を見下し、日本が優れているという内容の俳句も多く詠まれている。

また、俳句の季語を分析すると、「菊」、「梅」、「桜」、「野分」といった季語が比喻として使用されており、これらの季語は、日本国や清国といった国々やその兵士、軍隊の比喻として用いられていることが特徴である。

日清戦争期の記録は俳句というメディアでも残っており、当時の人々が日清戦争について詠じた俳句を見ると、戦争に対して肯定的な表現がなされており、俳句の表現から、清や朝鮮、台湾を見下す視線を持っていたと考えられる。

（指導教員 綿拔豊昭）